

**京都大学教育研究振興財団助成事業  
成 果 報 告 書**

平成26年4月

公益財団法人京都大学教育研究振興財団  
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局 物質－細胞統合システム拠点

職 名 拠点長

氏 名 北 川 進

助成の種類	<b>平成25年度 ・ 社会連携助成</b>			
事業名	科学技術イノベーションにつながる・つなげる国民との科学技術対話活動の展開			
実施期間	平成25年 4月 1日 ～ 平成26年 3月 31日			
実施場所	京都大学iCeMS、京都大学CiRA、京都府立図書館、科学フェスティバル会場(日本科学未来館、うめきた・グランフロント大阪北館 ナレッジキャピタル)など			
参加者	総数 約840人	内 訳 「成果の概要」参照		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有( 活動の報告冊子など )			
会計報告	事業に要した経費総額	2,802,643 円		
	うち当財団からの助成額	2,600,000 円		
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称) WPI運営経費、戦略的創造研究推進事業(社会技術研究開発)、科学研究費(基盤研究C)		
	経費の内訳と助成金の使途について			
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)	
	デザイン・制作費 <small>(ポスター・教材のデザイン・印刷など)</small>	781,500	781,500	
	消耗品 <small>(活動で使用した教材など)</small>	392,431	370,064	
	消耗品 <small>(文房具や機材など)</small>	353,040	321,540	
	謝金	216,860	216,860	
	旅費	260,172	244,432	
通信運搬費	191,004	191,004		
請負費 <small>(イベント設営や翻訳など)</small>	474,600	474,600		
その他 <small>(情報収集のための学会参加費や音声書き起こし費など)</small>	133,036	0		
合 計	2,802,643	2,600,000		
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。)  近年、社会連携活動を支援してくれる助成金は非常に限られている。そのような状況の中、支援をいただけるのは、大変ありがたい。 多様な人々に活動への参画をしてもらうには、すぐれたデザイン(場のデザイン、広報媒体のデザイン、教材やワークショップツールのデザインなど)が必要である。今回の助成を活用することで、様々な層の人々にアプローチし、科学技術イノベーション政策に資する意見を引き出すための新しい試みを複数回実施することができた。 貴財団の助成を活用することによって、より質の高い活動を実施することができたと思われる。			

京都大学教育研究振興財団助成事業 平成25年度 社会連携助成  
「科学技術イノベーションにつながる・つなげる国民との科学技術対話活動の展開」

成果の概要/水町衣里(京都大学 物質-細胞統合システム拠点・特定研究員)

京都大学物質-細胞統合システム拠点 (iCeMS) は、本助成事業を活用し、平成 25 年度中に以下の 14 の科学コミュニケーション活動を実施した。

1) 成人&科学・技術への低関心層にアプローチすることを目指した活動

活動内容	日時	会場	参加者
サイエンスアゴラ 2013 内でのブース出展「みんなでつくる未来像：iCeMS 発の科学から考える」	2013 年 11 月 9-10 日	日本科学未来館 1 階特設「最先端ゾーン」	450 人

約 5,800 人が参加した「サイエンスアゴラ 2013」という科学フェスティバルにおいて、幹細胞フィギュアが作成できる展示ブースを出展した。子どもにも魅力的に映るコンテンツを用意し、子どもとその保護者を巻き込むことで、これまでの活動ではアプローチできていなかった層の人々と出会うことを試みた\*1。また、Facebook ページを活用して、会場外の人にも展示ブースの様態を中継した\*2。

2) 青少年&科学・技術への低関心層にアプローチすることを目指した活動

活動内容	日時	会場	参加者
和歌山県の小学校への出前授業	2013 年 11 月 14 日	日高川町立三百瀬小学校 (和歌山県)	12 人
高校生向け実験教室「iCeMS/CiRA クラスルーム 2013: 幹細胞研究やってみよう! まずは観察から」	2014 年 2 月 10 日	京都府立洛西高等学校	39 人
NHK E テレ『考えるカラス』連動ワークショップ「ここから先をみんな考えてみる」 *一般社団法人ナレッジキャピタル主催 「ワークショップフェス in ナレッジキャピタル」内のワークショップとして実施	2014 年 3 月 30 日	うめきた・グランフロント大阪北館 7 階 ナレッジキャピタル	19 人

小学校や高等学校に出向き、独自に開発した科学教育プログラムを実践した。公募して参加者を集めるのではなく、学校の授業の一環としての実施なので、多様な層の参加者が含まれていた。加えて、商業施設グランフロント大阪内で開催されるフェスティバルの中でのワークショップ内でも親子を対象としたワークショップを実践した。

京都大学教育研究振興財団助成事業 平成25年度 社会連携助成  
「科学技術イノベーションにつながる・つなげる国民との科学技術対話活動の展開」

3) 青少年&科学・技術への高関心層にアプローチすることを目指した活動

活動内容	日時	会場	参加者
親子連れ向けワークショップ NHK E テレ『考えるカラス』連動ワークショップ「ここから先をみんなで考えてみる」	2013年 7月28日	うめきた・グランフロント大阪北館1階 ナレッジキャピタル カフェラボ	30人
金蘭千里高校日帰り郊外学習の受入 「生物を研究するって？ 大学にいる研究者のしごと」	2013年 10月16日	京都大学 iCeMS 研究棟 セミナー室	20人
高校生向け実験教室「iCeMS/CiRA クラスルーム 2013: 幹細胞研究やってみよう！まずは観察から」	2013年 11月24日	京都大学 CiRA 1階 講堂	81人
高校生向けワークショップ NHK E テレ『考えるカラス』連動ワークショップ「ここから先をみんなで考えてみる」	2014年 1月12日	京都府立図書館 3階 マルチメディア室	31人

高校生向け実験教室「iCeMS/CiRA クラスルーム 2013」には、近畿地方を中心に全国の64校の高校から、132人の応募があり、その中から81人が参加した\*3。また、2009年から実施してきた高校生向け実験教室や教材開発の試みが評価され、平成26年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞 理解増進部門を受賞した（業績名：幹細胞研究体験を通じた幹細胞知識と科学の考え方の普及啓発、受賞者：中辻憲夫、加納圭、水町衣里、川上雅弘、遠山真理）NHKの理科教育番組を活用した「科学の考え方」を学ぶことができるワークショップも小学生とその保護者向け、高校生向けの対象別に実施した。

4) 成人&科学・技術への高関心層にアプローチすることを目指した活動

活動内容	日時	会場	参加者
第15回 iCeMS カフェ：リズムにのる細胞	2013年 8月11日	京都大学 iCeMS 本館 2階 交流ラウンジ	19人
知ろう・語ろう・届けよう 科学技術イノベーション政策：第1回「知ろう」	2013年 9月30日	うめきた・グランフロント大阪北館1階 ナレッジキャピタル カフェラボ	33人

京都大学教育研究振興財団助成事業 平成25年度 社会連携助成  
「科学技術イノベーションにつながる・つなげる国民との科学技術対話活動の展開」

知ろう・語ろう・届けよう 科学技術イノベーション政策：第2回「語ろう」	2013年 10月28日	うめきた・グランフロント大阪北館1階 ナレッジキャピタル カフェラボ	25人
教員研修「iCeMS/CiRA クラスルーム2013：幹細胞研究やってみよう！まずは観察から」	2013年 11月23-24日	京都大学 CiRA 1階 講堂	42人
知ろう・語ろう・届けよう 科学技術イノベーション政策：第3回「届けよう」	2013年 11月25日	うめきた・グランフロント大阪北館1階 ナレッジキャピタル カフェラボ	18人
第16回 iCeMS カフェ：生命サイクルを紡ぐ仕掛けを探る	2014年 1月11日	京都大学 iCeMS 本館 2階 交流ラウンジ	22人

iCeMS が主催するサイエンスカフェを実施し、参加者と若手研究者の間で活発な議論が交わされた\*4,5。また、科学技術イノベーション政策をテーマに掲げたワークショップを企画した\*6。これは、参加者とともに「2030年にこうであってほしい」という日本の社会の将来像に関して議論をし、アイデアをまとめ、文部科学省の担当部署に届けるというところまでつながった活動だった。

\*1：開催報告は iCeMS のウェブサイトにも掲載されている。添付資料 1 参照。

<http://www.icems.kyoto-u.ac.jp/j/rsch/scg/2013/11/14-scg-rpt.html>

\*2： <http://www.facebook.com/fest.icems> 添付資料 2 参照。

\*3：開催報告は iCeMS のウェブサイトにも掲載されている。添付資料 3 参照。

<http://www.icems.kyoto-u.ac.jp/j/rsch/scg/2014/03/26-cr5-rpt.html>

\*4：開催報告は iCeMS のウェブサイトにも掲載されている。添付資料 4 参照。

<http://www.icems.kyoto-u.ac.jp/j/rsch/scg/2013/08/21-cafe15report.html>

\*5：開催報告は iCeMS のウェブサイトにも掲載されている。添付資料 5 参照。

<http://www.icems.kyoto-u.ac.jp/j/rsch/scg/2014/01/11-cafe16report.html>

\*6：開催報告は研究プロジェクト PESTI のウェブサイトにも掲載されている。添付資料 6 参照。

[http://www.pesti.jp/home/event/pesti\\_workshop](http://www.pesti.jp/home/event/pesti_workshop)